

議 事 概 要

目 的	第 1 回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	----------------------

日 時	平成 2 8 年 6 月 3 日 (金) 2 0 : 1 0 ~ 2 1 : 1 0
-----	--

場 所	本庁 3 階 第 2 ・ 第 3 委員会室
-----	-----------------------

部 会 名	第 1 部会
-------	--------

内 容	<p>○出席者 委員：今村 澄子、岩崎 恭典、田崎 祐一、玉乃井 耕二、中村 レイ、與谷 公孝 市：市民サービス課 山中補佐、消防総務課 久保補佐、防災危機管理室 神保室長、 市長公室 高濱事務員 コンサルタント：(株)日本開発研究所三重 館部長</p> <p>○主な協議等内容 ・部会長 與谷 公孝 氏 ・次回開催日 平成 2 8 年 7 月 5 日 (火) 1 9 時～ ・質疑応答 以下のとおり</p> <p>委員 総合評価書(案) 1 6 P の「1 1 3 市民参加による防災対策」の将来財政負担で減 1 (4) とあるが、 防災対策費が少なくなるという意味なのか。</p> <p>館部長 その通りである。</p> <p>委員 その根拠はどこを見れば載っているのか。</p> <p>館部長 事業評価一覧の 1 9 P に載っている。</p> <p>委員 1 9 P のどこを見ればどの事業が減らされるのか分かるのか。なぜ減るのが分からなければ、達成 されて減るのか見直して減るのがわからないので、審議しようがない。総合計画書(案) 2 6 P の「1 2 2 男女共同参画の推進」の財政負担減 1 (1) にも同じことが言える。次回だと非常に時間ももった いないので分かり次第、どういう形でもいいので分かりやすい資料を頂きたい。</p> <p>神保室長 市からの書類となると予算書等も添付しないとイケなくなる。どういう風に摺合せをしていくのか。 そこまで用意しないと進んでいかない。</p> <p>委員 進んでいかないというなら、なぜこのような書類にしたのか。説明がなければ、こちらとしても話が</p>
-----	--

出来ない。委員が分からない書類を市民の人が読んで分かるのか。分かる書類がないと反省も話し合いも出来ない。それともう一つ、市民アンケートは何人に調査したものなのか。

館部長

尾鷲市まちづくりに関するアンケート調査結果報告書の2Pに523票とある。最近5割を越える回答結果を望むのも難しい中しっかり回答をいただいている。

委員

ただ、だいぶ高齢者の意見に偏っている。

委員

それも載っているのか。

委員

4Pに載っている。

館部長

4Pを見て頂くと、回答者の分布と、住民基本台帳に載っている住民の分布が載っている。実際住んでいる住民の比率と比較して、極端に偏りがあるとは言えない。

委員

内部評価は何人に調査したものなのか。

館部長

内部評価に関しては、担当課で評価したものである。

委員

事業に対する担当課が自分で評価したものということなのか。

館部長

そのとおりである。

委員

自己評価ということか。

久保補佐

補足だが、担当者一人が決めているわけではない。消防救急対策については消防組合として、目標を立て、それが実際に達成できたかどうかを判断基準としている。先ほども言われていたが、前期5年間の目標を全て公表するとなると、資料的にも膨大になってしまう。まずどこまでの資料について話し合うのか。

委員

どこまで資料を公開するのかではなくて、どういう基準で評価がなされているのかを聞きたいだけである。

久保補佐

その基準というのは、担当部局によって様々である。例えば、消防だけでも、具体的に評価できるものと出来ないものがある。

委員

その基準は決まっているものではないのか。

館部長

基本的には、担当課として判断して評価している。評価の基準としては総合評価書9Pに書いてある

が、担当課の主観で決めている。

委員

「111市民参加によるまちづくり」が事業評価一覧の1PではA,Bと評価が高いにもかかわらず、施策評価がEと低いものになっているのはなぜなのか。

館部長

事業ごとの評価をしていくとA,Bになるが、施策でみるとEという評価が出たのは、やるやらないという達成度だけではなく、有効性を含んだ評価になってしまっているからということである。

委員

自分たちで評価してEということだが、理由が書かれていないのではないか。そこだけでいいので抜粋して教えてほしい。

館部長

事業評価一覧1Pの施策評価の右に「気軽に利用できる施設になっていない。未だ公民館という意識が多い」と書いてある。これは達成したかどうかということではない。

委員

これゆえにEという評価ということか。

館部長

そのとおりである。

山中補佐

担当課からの意見としては、平成24年に公民館から、コミュニティーセンターに変更となり、市民の皆さまに利用を促しているが、限られた方々しか利用されていない。本来なら、色々な方々に活用して頂きたいが、なされていないと言うことでEとしている。

委員

これは広報等と関係してくるのではないのか。

山中補佐

市民サービス課からのPRが足りないのか、講座の内容が良くないのかは分からないがもっと活用できるという意味で評価を低くしている。

委員

今の話を聞くと、こういったところが、今後5年の課題だと言える。コミュニティーセンターになったが、公民館のような利用しかされてない。第6次尾鷲市総合計画で言うと、市民は地区活動への参加と、その企画・運営に参加しますと書いてあるが、なかなかできていない。

山中補佐

そのとおりだ。自治会に関しても、「市民は自治会・地区会に加入します」とあるが、自治会が解散している現状がある。自治会がコミュニティーセンターに対しての働きかけをしてはいるが、現状減っている為、評価を下げざるを得ない。だから厳しめの評価となる。

委員

もう少し書き方があったのではないか。この書き方では、コミュニティーセンターはちゃんとしているのに評価されていないように見える。

委員

もう少し文字を増やして書かないといけない。

委員

今、説明されると良くわかるが、上手く文章として表現してほしい。自己評価をしっかりしているのは分かるがこれでは伝わらない。

山中補佐

改善するように取り組みたい。ただ、評価指標として決められたことはあるが、実情としてはこの評価指標では評価できない部分もあり、困難である。

委員

そういう意味ではシビアに見ると、項目としては良いが、市民参加という観点からは出来ていないと言うことが言える。

委員

そういう点から、人づくりと共創というのが大きなテーマになっている。全体会でも言いたかったが46Pの主な取り組み方針にも上がっている部分が一番大事だと思う。この中に「市民は～」が主語になってる項目が2つある。このことから、総合計画の中に市民も役割としてあることが分かる。この項目は市として、ハード面をそろえてあげることは済んでいる項目なわけであり、それを活用して、人々の輪をつくるという点は担当課としての課題と言える。これは防災にも言える。活動は行うが、避難経路の確認や食料品の備蓄は、各々でも意識を持って取り組んでもらわないといけない。これが相俟っているから原課としての評価では、「市は～」の部分は評価できるが、「市民は～」の部分は評価できない。この部分をこれからの会議で意見をいただきたい。

館部長

是非、その視点で意見をいただきたい。

委員

一つ要望だが、次回は個室での話し合いとして頂きたい。

館部長

他の部会との兼ね合いもあるが、検討していく。